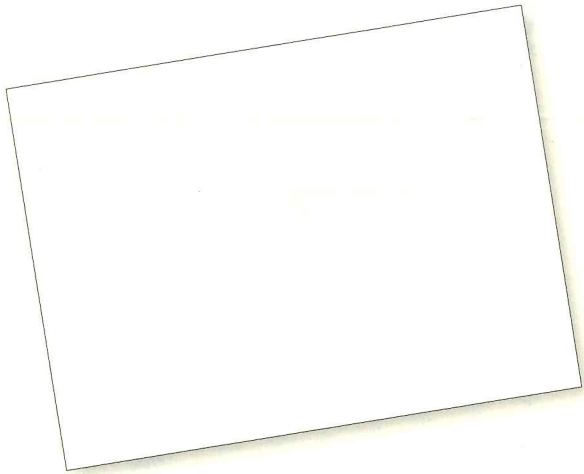


さん

お誕生おめでとう
生まれてくれてありがとう



大切な人に思い出の写真やメッセージを贈りましょう。

お誕生おめでとう 生まれてくれてありがとう

真城 義麿

- あなたはいつからあなたですか…………… 1
- 四月八日は花まつり…………… 4
- お釈迦さまとはどういう方か…………… 5
- なぜお釈迦さまの誕生を祝うのか…………… 7
- お釈迦さまはなぜ右脇から生まれてきたといわれるのか…………… 15
- 甘茶を注ぐのはなぜか…………… 18

- 生まれてすぐ七歩あるいたお釈迦さま…………… 20
- 「天上天下唯我独尊」の意味…………… 24
- 人材と人間…………… 29
- 生老病死…………… 32
- 平等のいのち…………… 36
- いのちは誰のものか…………… 38
- 「私」が闇を作り出している…………… 45
- 私として共に生きる…………… 53

■あなたはいつからあなたですか

あなたの生年月日はいつですか。それは本当に確かですか。自分で知
っているのですか。誰かに教えてもらったのですか。自分の生まれる前
後のことを知っていますか。自分の体験の記憶ですか。誰かに教えても
らったのですか。あなたに関するあなたの記憶はどこまで遡さかのぼれますか。

四歳ですか。五歳ですか。では、それ以前はどうだったのでしょうか。そ
れ以前もあなたはあなただったのでしょうか。あなたは人間ですか。隣
の人はどうでしょう。どうすれば、自分が人間であると、また隣の人が
人間であると証明できるでしょうか。最近の映画のなかでは、人間の姿
をした地球外生物やコンピュータで動くサイボーグなども登場していま
すね。

いのちは誰のものでしょうか。もしあなたのものだすると、あなたが作ったのでしょうか、あなたが誰かからもらったのですか。もらう前は誰のもだったのでしょうか。もらうとか、与えるということが成り立つことなのでしょうか。

あなたの周りにお年寄りの方がおられますか。あなたは、親しい人のお葬式に参列して、どんなことを思いますか。死んだ人が損で、生きている自分が得ですか。死を予感しながらも治療をされている方をお見舞いに行ったことがありますか。

お年寄りから「私らも若い頃は元気で良かったが、こうして歳をとるとつまらんようになりました」という言葉をよく聞きます。刻一刻と訪

れる「老い」は、人間の自信を奪い、不安を増大させ、自分が生きていることに罪悪感さえ抱かせてしまう、そんな様相がみられます。人間を観る眼に、何か大事な視点が忘れられているようです。人間の価値や尊さをどこに見ていかなければならないのでしょうか。

今のこの私に価値があるのでしょうか。私がこの私に生まれたことにどんな意味があるのでしょうか。毎日の生活に喜びを感じられないのはなぜなのでしょうか。気づいた時には、私たちは生まれていました。そしてそれからずっと、そして今も生きています。「生まれた」のは、何が生まれたのでしょうか。生きているのは、何が生きているのでしょうか。生きているかいないかはどう異なるのでしょうか。

そんな一切を考える機会であり、教えてくれる行事に「花まつり」が

あります。お釈迦さまのご誕生のお祝いの行事です。ご存じですか。

■四月八日は花まつり

かつて、江戸では鑄物の職人さんの間で、火力が強すぎて不良品になったことを「オシヤカになつた」と言つたそうです。こう言えば何が原因で作り損なつたかが伝わつたのです。これは江戸の訛りでは「ヒ」と「シ」の発音がひっくり返るので、「火が強かつた」は「四月八日だ」に聞こえ、お釈迦さまを連想したのです。つまり、仏教関係者だけではなく、職人の世界でも、四月八日はお釈迦さまの誕生日（花まつり）だと知られていたのでしよう。

さて、仏教系の保育園や幼稚園の多くで、また小・中・高等学校や大
学でも、「花まつり」が行われることがあります。中央に、お花をたくさん飾つた小さなお堂（花御堂）があり、そこには、右手の人差し指で天を指さし、左手の人差し指で大地を指さしながら、立つておられる小さい子どもの姿の仏さま（誕生仏）といわれています）がいっしょにいます。この仏さまに明かり（灯）を捧げ、お花を供え、そしてお香を焚いて、お祝いをします。また、「灌仏」と言つて、甘茶を誕生仏の頭の上からかけます。そうやって、「ハッピーバースデー、お誕生おめでとう、生まれてくださつてありがとうございます」とお祝いをしています。

■お釈迦さまとはどういう方か

お釈迦さまと呼ばれる方が実際におられました。一時期、お釈迦さま

という人は、想像上の人物ではないかということまで言われた時期もあります。十九世紀の終わりに考古学者たちがいろいろな場所を発掘して、お釈迦さまのお骨に間違いのないと思われる骨壺こつぽを発見し、今それがニューデリーのインド国立博物館に安置されています。

お釈迦さまという方は、正しくは「釈迦牟尼世尊しやくかむにせそん」、縮めて「釈尊しやくそん」と言います。お釈迦さまの「釈迦」というのは個人の名前ではありません。現在のインドとネパールの国境周辺に住んでいた「釈迦族」という人たちの名です。釈迦族と呼ばれる人たちは、今の国境をまたいで北側のネパール側にも、南側のインド側にも、広がって住んでいました。ですから、お釈迦さまは「釈迦族出身の方」ということです。また、「牟尼」のもともとの意味は「静かに歩く人」「静かな人」という意味です。つ

まり、修行を積んで自分の心が静かになった、欲望が燃えさかっているのではなくて静かになった、そういう人のことを「牟尼」と言います。それから「世尊」とは、世にも尊い方ということ。この本では、これからも「お釈迦さま」という呼び方を使うことにします。

■なぜお釈迦さまの誕生を祝うのか

「花まつり」では、なぜお花を飾ってお祝いをするのでしょうか。お釈迦さまは、お花がいっぱい咲いている花園のなかで生まれました。釈迦族の国に、シュッドーナじようぼんのう（浄飯王）という名前の王さまがいました。この王さまはお釈迦さまのお父さまで、この国では稲作が盛んに行われていたので「浄飯王」と呼ばれていたのです。お釈迦さまのお母さまは、